

追跡レポート

あの質問 どうなった？

議員の質問・提言に答える町執行部、その答弁がその後どうなったのか、どう町政に反映させているのか、対応を追跡しました。

令和4年12月定例会 一般質問

小磯 利雄 議員

消防団の処遇改善を

報酬及び費用弁償額等処遇改善の観点から、見直しする考えはないか伺います。

改善に向けて検討

消防団の報酬及び費用弁償、備品等の改善に向けて検討します。

団員の報酬等が上がりました

令和4年第1回定例会に広野町消防団設置等に関する条例の一部を改正する条例が提出され、全会一致で可決しました。

団員の年額報酬が2万5000円から3万6500円に、災害出動時の出動報酬（改正前は日当）の1日当たりの額が5000円から8000円に改められるなど、消防団員の処遇が改善されました。



消防団

8人の議員が町政を問う

遠藤 浩 P9

- 「資源ごみなどのリサイクル率」に関する報道について
- 広野町の歴史、伝統、文化の継承について

門馬 巧 P10

- 割愛人事について
- ゼロカーボンシティへの最初の一步

畑中 大子 P11

- 福島原発「避難者訴訟」の東電上告が退けられたことからの、原告と同等の住民への賠償について
- 「生業訴訟」の判決で国策が問われることについて
- 下原地区採石場の跡地工事の認可通知と町の姿勢について

門馬 まりえ P12

- 広野町のゴミの排出について

北郷 伯弘 P13

- ウクライナ人留学生への支援について

小磯 利雄 P14

- 事業費負担の公平性について
- 折木下原地区河川残土受入反対について
- 原発事故より12年にあたり
- 公共施設の負担について

渡邊 正俊 P15

- 肥料高騰による農家支援策について

阿部 憲一 P16

- 原発リスクを質せ
- ワクチン効果はない
- 役場内の担当者を明確に

一般質問は、行政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、説明を求めたり所信を問いたすものです。

ごみ排出量

県内ワースト1の根拠は

町長／実態とは乖離している

遠藤：福島県は県民1人1日あたりの一般廃棄物の排出量が1033gと2年連続全国ワースト2位となり、県内の市町村別では、広野町が1332gと最も多い結果との報道がありました。

で除した値です。双葉地方においては、復興事業等に従事する滞在者が多く、住民人口に対する一般廃棄物の排出量に大きな乖離が生じており、県が行った集計は双葉地方の実態と整合性が取れていません。

遠藤：町内のごみステーションに町外通勤者らによるごみの持ち込みや事業所系のごみが捨てられた実態がありました。こうした行為に町はどのように対応してき

ましたか。町長：ごみステーションの利用について、広報等によるごみ出しマナーの広報、行政、警察、廃炉等ゼネコン企業で構成する安心・安全ネットワーク会議等

に於いて、ごみ出しマナーの指導など、啓発活動に取り組んでい

ます。ごみステーションの増設、環境美化推進員を10人に増員、監視カメラの設置による適正利用化等により、生活空間から町内全体の環境美化に取り組んで

います。遠藤：今回このような報道がされた事は、大変遺憾であり、今後の移住・定住希望者に悪い影響を与えかねないと考えますが、今後の町の対応を伺います。

町長：町はこれまで生ごみ処理容器や生ごみ処理機の助成、古着回収や段ボール等の資源ごみ回収を行い、ごみの再資源化を図り循環型社会の形成に取り組

んできました。ごみの減量思想の啓発を着実に進め、エコバッグ利用によるレジ袋を削減する等の廃棄物の発生抑制、詰め替え用製品利用による容器の再利用、ペットボトル等の資源ごみの分別収集による再生利用を図り、家庭内ごみの減量化に取り組んで

います。移住・定住希望者に向けて、美しい自然環境に包まれた持続可能な社会の実現に向け、着実かつ確実に取り組んでいきます。



えんどう ひろし 遠藤 浩 議員

文化・歴史資料の目

を向けると過疎化や関係者の高齢による影響から厳しい保存状態に置かれているのが実情です。

未来の子どもたちと町民に文化財や貴重資料を継承するため、町施設「ひろの未来館」で保管展示する取り組みを始めてはいかがですか。

教育長…過疎化や少子高齢化の進行により文化財の保存に影響が及んでいますが、寺社や個人が所持する文化財については、政教分離の憲法上の解釈もあり、所有者等が管理することとなっているので、町はこの文化財を保管・管理することとはできません。

町は、その保存及び活用に必要な措置を講じることを目的として、優れた文化財を指定し、経年劣化や損傷が見られる場合には、関係法令や条例に基づき、所有者と調整の上、補助や助言等、必要な措置を取ることとしています。